

令和3年度 第2回子ども権利委員会会議録

I.開催日時：令和3年8月26日（木） 15時～17時

II.場 所：名張市総合福祉センター ふれあい 202会議室

III.出席者：子ども権利委員会 委員長、副委員長、委員5名

事務局：福祉子ども部次長、子ども家庭室要保護対策担当室長、

子ども家庭室員1名、子ども相談員

IV.内 容：(1)子どもの権利に関するアンケート調査結果報告書について

(2)ばりっ子すくすく計画（第5次）（案）について（資料2）

【質疑・意見交換】（委）：委員長 ○：委員 ⇒事務局）

【委】 コロナ禍において、子ども達の権利をどうやって守っていくか、皆様のご意見をたくさん出して頂いて、少しでも子ども達の権利、育まれる権利等々、上手く子ども達に返せるように、皆さん意見を述べて頂けたらありがたいと思いますので、よろしくお願いします。

⇒ 先程、委員長からもありましたように、子どもの権利をどう守っていくかという所で、いつも皆様には大変お世話になっております。夏休みもあと1週間という中で、明日から三重県も緊急事態宣言が発出される状況です。市でも昨日、感染の対策本部会議を開いた中で、市の施設・或いは学校をどのようにやっていくかを議論して対策を練っているところです。

前回1回目7月1日に令和2年度の活動報告をさせて頂いた訳ですが、今回2回目は議事にもありますように、アンケートの調査結果についての報告に基づき、今年度策定をいたします、ばりっ子すくすく計画の第5次に反映させて頂く事にもなってきますので、皆様の活発なご意見をお聞かせ頂きますよう、よろしくお願い致します。

⇒ 一言、お断り申し上げます。取材が1件入っていますので、最初の所だけという事でご了解頂きたいと思います。それでは、議事の進行を規則に従いまして、委員長に進めて頂きますので、よろしくお願い致します。

1.議事

(1) 子どもの権利に関するアンケート調査結果報告書について

【事務局説明】 *省略*

委 はい。ありがとうございます。アンケート調査で質問・ご意見等言って頂けたらありがたいと思いますので、よろしくお願いします。

5 ページに食育に関するアンケートが出てますが、朝食・夕食とも食べないという子が誰もいなかったという事が、1 番私としては嬉しいです。ただ、単に、ああ良かったというものでおられない、逆に言ったら経済的にしんどくなってるという様子も見受けられるかなあと思うんです。

○ たくさんのご意見、アンケートの結果をまとめて頂いて本当にありがとうございます。一番最初のページを見て、感動したというか、嬉しかったのが小学5年生の1 番ですね。あなたは自分について、「いいな」とか「好きだな」と思っていますかっていう結果が、前々回は 23%、前は 27%、今回 34.5%。自分の事を良いと思ってる人がすごく増えている。今ものすごく自尊心とか自己肯定感とかよく耳にしますが、そういう事を教育の中で、たくさんの方が関わって頂いた結果がはっきり数字に出たというのが、すごく嬉しかったので、本当にありがとうございます。

○ 今のご意見に関わってなんですが、私も大変興味深くこのアンケートを見させて頂きました。以前から海外の子ども達に比べて自己肯定感がかなり低いと言われてきた中で、小学校5年生で7割以上の子が自分のことを好きだとか、結構いいなあと思っている、すごいなあという感じを持ちました。学校生活についても、ホッとできる場所に学校をあげている子も結構いて、普段話す相手に友達が増えてる。それから先生。そういうのがかなりの割合で高かったので、大変うれしいなあと思うのと同時に、やはり関わっておられる先生はじめ皆さんの努力はかなりのものだったのだろーと思わせて頂きました。ただ、私たちが焦点を当てて見ていかなければならないのは、大切にされていると思っていない子達、もう少し深く掘り下げて対応を考えていく必要があるかなあと思います。

委 そうですね。その方もやっぱり目を向けていかないといけないと思う。ひょっとしたら、コロナ禍で、学校に行きたくても行かれなかったというのがあるんで、学校行ってやっぱりホッとしたという部分はあると思うんです。学校行ったら友達と会えて、遊べて、いろんな話が出来てホッとした、という回答も上がってるだろうし、次回もこの辺の数字の変化を見ていかなければいけないという気がします。

○ 私も素直な気持ちで、ああ良かったなあって思ったんですが、それが社会的な努力の結果なのか、学校の先生方が子ども達にいろんな所で、自分を肯定する気持ちになるような、言葉がけを指導されてるのか、その辺が全然見えてこないのので何故上がったのか

すごく知りたいと思ったんです。逆に4人に1人はまだ自分の事を否定的に捉えてる子もいる訳ですね。そういう所ももっともっと掘り下げて行って、もうちょっと個人的に出来る事があるのかなあっていう風に感じたんです。先生何か良い事があったんでしょうか。

- 自分の事が好きになって欲しいっていうのは、学校教育の中でずうっと大切にしてきて、自尊感情を高める、自己肯定感を高める取組はずうっと継続して行ってまして、学校アンケートも毎年ほとんどの学校であるんです。今この数字が上がったのは何故かという事になると、急に何かの取り組みを始めたという訳ではないんです。確かに嬉しい結果であるなあと考えております。

委 はい。ありがとうございます。
これ全部のアンケートをタブレットで行ったのですか。

⇒ はい。

委 それでしたら、1ページの所にそういう一言入れてる方が良いでしょうね。
方法が変わりましたよという文言が無いなあと考えて。

⇒ はい。それは入れられると思います。

委 今回からは紙ではなくタブレット方式に変更しますっていうのをに入れて頂いて。

- そこら辺をもう絶対個人は分からない形ですからねっていうように言ってもらわないと、どうしても回答したものが筒抜け、情報が筒抜けになるんじゃないかって思うと、本音が出せなくて良い子ちゃんの回答だけ書いて出してしまう。

- だから、そういうしんどい思いをした子がいなければ良いなと思いました。

委 はい。ありがとうございます。他にご意見はありませんか。はい。どうぞ。

⇒ 今回初めてタブレットという形で書式を変えさせて頂いて、学校の協力を得ないと出来なかった事業でございます。学校の先生、お手数をおかけしましてありがとうございます。情報については、「秘密は守られます」という一言を添えたら良かったなという気がしますので、次回以降のアンケートの際は参考にさせて頂いて、「何でも自由に書いていいんだよ」というような形で頂きたいと思います。率直な子どもさんの意見も

集まっていますので、市の施策であったり、反映していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

委 はい、ありがとうございます。他にご意見はありませんか。

子ども達の意見が出てきてる所を見たら、ばりっ子会議は毎年同じものを行っているから、違うのをやった方がいいというのがあるが、同じ事をやりつつあって、ばりっ子会議に参加してくれる子ども達が増えてきたというのも事実ですし、ちょっと変革していかないといけないかなあと思います。1クラスの人数が少ない方が良いという意見もあります。

○ ホットででき、安心していられる場所はどこですか。というところで、こもりっきりの感覚の子が一定数いるのかなあという事も思ったんです。一人が一番良いと思っている子がいるけど、外にどんな場所を求めているんだろう。そういう子達は、というのが、とても気になりました。

委 我々が親の立場として、子どもは友達と一緒に遊んだら、一番いきいきしてくれるんだろうなあという感覚なんだけど、子ども達からしたら、一定の子ども達は、友達でもない、親でもない、先生でもない、学校でもない、一人っきりでいるのが一番ホッとするんだっていうのが、とても衝撃的で。これ見た時に寂しいなあという風に感じてしまったんですよ。

⇒ 色んな目で見て頂きまして、ありがとうございます。この設問については、前回から複数回答可能という事になっています。手元に詳細な物を持ってないので、何とも言えませんが、この“特に無い”という一つだけに印をしたというのがあると、非常に怖いというか、その子に対してもう少し何か差し伸べていかなければならないところがあるのかなあ。

委 特に無いというのがね、一番心配やなあと思いますね。

○ 中学2年生の子達の自由記載の中で、物事を進める時、全部大人が決めるのではなく、子どもの意見も聞いてほしいってありますが、今回、コロナの蔓延防止緊急事態で、陸上の大会が前日に中止が決まり、子ども達は大変なショックを受けました。子どもの権利って何だろうって、本当に思ったんです。子どもに、こうするんだ、ああするんだと押し付けて、命は大事だけど、これでいいのかなあって、凄く感じています。

○ 子ども達は、「なんやねん俺らは」っていう反発が出て来て、反発が生まれてしまう

と、守って欲しいことが守ってもらえないことになるということがあって、何か子どもを発散させる所を作りながらじゃないと、やっていけないなという感じが凄くします。

委 オリンピックも、中継を見てたら、やって良かったという気持ちも個人的には沸いてくるし、非常に難しい年ですね。他にご意見ありませんでしょうか。

⇒子ども達の意見を聞く前に、大人で判断してしまっているというのは、半分は仕方がないなっていうのだったり、この状況で見に行くのはおかしいと思うと言ったりするので、その中で、何故だという複雑な気持ちはあるんだろうなあって思って、子どもと話したりします。

委 日頃からどれだけ保護者と子どもがコミュニケーション取れているかというのは、一番大事なかなと思いますけれども。

○ 話す事が出来ない、話す相手が親御さんであったり、先生であったり、話が出来ない子ども達のモヤモヤっていうのが、すごいんじゃないかなあと。

委 はい。ではこれで終わらせて頂いて、次の項ですね。第5次行動計画についてお願いします。

(2) ぱりっ子すくすく計画（第5次）（案）について（資料2）

【事務局説明】 *省略*

委 はい、ありがとうございます。何かご意見、ご質問ございましたらお願いします。

○ 11 項のあなたは子ども条例を知っていますか、という質問に対する数値と文字表示ですが、小学5年生の子が49.3%知っていると答えています。このアンケートは3年ごとに行うから、また、この5年生達が中学2年生になった時に行う予定だと思うんです。49.3%がすでに知ってくれているのに、令和6年の目標値が50%というのは、目標として低すぎませんか。55%くらいまでに、目標をもって行くことは、難しいでしょうか。あと、22 項に子ども相談室知っていますかという質問があって、年々知らないが増えていってるというか、毎年、年度初めにカードを持って帰ってくるけど、子ども達はキープしないので、長期間持てて、子ども相談室を意識してもらえるような、工夫をしてもえたらと思います。

- マグネットになっていて何かに使えるとか、定規になっていて使えるような、子どもが置いておく理由が無いと、最近の子どもは物を置いておかない感じがします。

委 前任の子ども相談員さんが、一生懸命色んな方法でやってくれて、数値が下がっているから、非常にショックでしたね。右肩上がりでずっと行けとは思わないけど。学年が進むにつれて、知らないというと、おいおいと。他にご意見はありませんでしょうか。

- ヤングケアラーの件に関しては、大人がしないといけないのを、子どもに押し付けているみたいな植え付け方を子どもにしない方が、僕は良いと思うんですよ。ヤングケアラーがいますっていうことは、そのそばには、ケアをしてもらわないといけない家族がいる訳なんですよ。それをほっといてヤングケアラーが居場所を作ってもらって、そこへ逃げ込んでしまうようなイメージを作ってしまうと、それはちょっと本来の考え方ではないんじゃないかと感じているんです。ヤングケアラーをケアするだけが善であって、それだけを改善のターゲットにしてる事事態が間違いじゃないかなあ。ケアしてもらわない人を行政としても社会としても、どうケアするのかというのを、前面に出してあげないと。そこを上手に表現しないと。

⇒ ありがとうございます。表現については、再度検討させてもらわないといけないかなと思います。今、ヤングケアラーというのが、全国的に注目されている言葉になっています。ケアラーの支援という事は、子どもがケアをしている方、大人がケアをしている方でも支援していくという事になっています。ケアをされている方の負担を取り、ケアをする方も負担が少なくなるというのを目指していこうというものです。何か支援するサービスをそこへ持っていくというような事もあり得ると思います。各家庭や子どもがどう思っているかということも、丁寧に聞き取りをしながら、やっていかなければならないのかなあと思っております。一方その中で、子どもの権利というところもありますので、そこらは本当に整合を図りながらやっていかなければならないのかなあ。ケアラーの支援に係る条例が新たに出来たので盛り込ませて頂いたというところでは。

委 今回のケアラーの条例の部分と言うのは、ヤングケアラーだけと違って、大人も含めて、全体の支援という考え方ですね。そのヤングケアラーを無理やり放り込んだっぽくしないで、子どもはしっかり守ってあげて、それも権利を行使できるような環境を作ってあげると言うのは、絶対大事なことです。逃げ場所作りが必要みたいなイメージになって欲しくないなあって感じました。本当に柔軟にどう対応していくかは、名張独自の“凄いな名張はそんなとこまで考えて、そこまで支援するんだ”っていうぐらいのもんを、作ってもらって、子どもらがヤングケアラーを支援してもらえたらなあと思っています。

⇒ 本当に子どもの権利を守っていくという中では、色んな所が、どこがやらなければならない、どこだけに任せておいて良いという訳ではないので、皆さんで共有しながら、子ども達の権利を守っていくという事をしていかななくてはならないと思っています。

委 子どもだけじゃなくて、大人を支援していく。その大人を支援することによって、ヤングケアラー的な言葉の数が少しでも減れば良いというような考え方に基づいて、ヤングケアラー、ヤングケアラーと言っても始まらないと思うんです。全体的に考えていかなかったら、ヤングケアラーの問題は解決しないのかなあというのは、現場にいる人間として実感しますね。16 頁に発達支援を必要とする子どもへの支援体制と家族への相談体制を強化するため関係職員の専門性の向上を図りますとありますが、支援というのを含める中では、発達外来へ行くと、市外からもたくさん来ている。そういう支援も考えてもらったら、“名張市良いやん”というふうになって、良いかなあと思いました。発達支援という文言を入れるのであれば、そういうことも考えてもらったらなあと思います。

⇒ 皆さんもご承知の通り、市立病院には発達支援外来という科がありますし、隣の子どもセンターには、発達支援センターを設けています。市としては、発達支援に対する強化もしているところです。名張市にそういった専門的な機関があるという中で、市外から転入を頂くという家庭も増えてると聞いていますので、更にそういった面も充実させて頂ける事になるのかなあと思います。

委 保育士さんとか、保健師さん、教職員、地域の支援者等、研修をしていくというのも一つの方法だと思うんです。保育士さんとか、教職員の方が発達支援センターや小児科の外来の方と繋がっていけば、名張市全体のスキルはアップするだろうなと感じましたので、よろしくお願いします。

○ 中学 2 年生の第 4 次計画策定時の現状値及び目標という所の平成 29 年度に 61.5%と書いてもらっていますが、アンケートの一覧表には 61.6%となっています。ちょっとしたことだと思いますが、一応資料として出すのであれば、確認してください。

⇒ わかりました。他の所も併せて、一回確認させていただきます。

○ 表記の問題で気になったのは、年次の計画は、左からの右に年度が新しくなっている、アンケートは右から左に新しいのが表記されているので、時系列の方法を、どちらかに統一して頂いたほうが良いのかなと思います。

⇒ 可能かと思います。

○ 目標値というのは、単純にこれどうしてこのパーセントというのが出るんだろうか。

⇒ 急遽、この第4次の現状と目標値を入れようという話になりまして、最初は第5次だけの現状値と目標値だけを示してあったんですが、後との比較が出来ないという事で、前回の策定時のものも入れてもらい、今回提示させて頂きました。

委 目標値の設定の仕方は、おおよそ、こうなるであろう、あって欲しいというところで、されていたのか、逆に前回のからいって、こうありたいという目標値を設定されたのか、その辺はどうなのですか。

⇒ 現状値のところから、少しでも上げていきたい、前年の目標値を参考にしながら、近いところで何とか届くところというので、設定しました。

○ 目標値のこのパーセントの設定の仕方が、どういうことでその目標値のパーセントを決められているのかなあと思ったのが、素朴な疑問で、気になりました。

委 目標値が、バラバラになっている根拠ということですね。

○ 前回作られたものからの上り率、下がり率で目標率が決まるっていうのは、どうなのかなあと、気になったので、聞かせてもらいました。

⇒ 令和3年の現状値を一番注目して、そこからは下回らないようにというところが一つ、例えば19項の所で、70%を超えて来てるところについて、次に例えば1割増しで80%に上げられるかという、そこは難しいのではないのかなあとの実感もあります。目標値については、この73%でして、次に6年度で実績値、現状値を取った時に、これを超えておれば、一つ計画として進めてたというところになるかなあと。

委 令和6年度の目標値というのは、全部の項目に対して、こうあって欲しいというのが、目標値ということですか。

⇒ はい。それは一つ念頭に。

委 目標値の設定は難しいですね。個々の家に対して働きかけていかなければならなくなってくるし、かといって、この相談室知ってますかは、啓発運動によって、パーセント

上げることができる。

⇒ 分かりやすい計画という中では、数値目標を上げて、その数値に、より近づけていくというのがあります。そんな中で、目標を出す時には、議会の方に報告もします。その時にやはり、数値甘いのと違うとか、もっと上げられないのか、過小に、過大に見積もっている、過大な目標になっているのと違うか、やっぱり、同じような議論はされていきます。本来なら、全て 100% という値が目標とすべき数値ではあるわけですがけれども、色んな状況の中では、そこまで行ってないっていうものもあります。一つ一つ見たらちょっとおかしいかなあという所があるかもしれませんが、一定、このような形でお示しさせて頂いたところです。

委 今、名張市の子ども権利条例のお勉強をしている子どもにも権利があるんだよという人達が大人になっていった時に、この数値がゆっくり近づいて来てほしいね。他にご意見ありませんでしょうか。

○ 全く今日の議題と違う話で、ちょっと確認させて頂きたいのですが、保育施設の広がりというか、どんな状況なのかなあと。施設として、確実に、着実に増えているかどうか、全然分からないので。

⇒ 待機児童につきましては、今年も去年も、4月1日現在ゼロでした。月が過ぎて、8月1日現在は11人待機児童がおりましたが、この8月中に施設に入ってもらっている方がおりますので、現状としては、少なくなってきました。その一方で、この間から議会の方で説明させて頂きましたのは、桔梗が丘南幼稚園、名張幼稚園と合わせて大屋戸保育所を年次的に統合して行って、新たに認定こども園を作るというような事です。3つの施設を1つにするという事になりますので、施設の数が変わります。子どもの数としては同じような形に、総数的には余り変わらないというような事になっています。将来的には、子どもの数が少なくなっていくしますので、人数的には少し定数の見直しがあるかもわかりません。

○ 今、名張でしたら、工業団地に色んな企業さん達が来てくださってますよね。企業内保育っていうのも結構有ると思うのですが、市さんは全部把握されているんですよね。

⇒ 八幡工業団地で企業内保育をして頂いていたところがありましたが、今は、一旦閉じたような話を聞いています。いくつか社会福祉法人の高齢者施設を持っておられる方が、企業内保育をしている。その中でも、地域の枠を持って頂いて、その従業員さんのお子様だけではなく、地域の子どもさんもお預かりして頂ける。その窓口は市の方で

やっている訳ですが、今度新しく出来る、いきいきの隣の総合施設も従業員の福利厚生の一環という中で、地域枠もあって、地域の子どもさんも受け入れさせて頂ける形で聞かせて頂いています。

- 名張幼稚園無くなっちゃうんですけどね。親は幼稚園のある生き方を出来るってことで、幼稚園は時間短いですから、それ以外の時間は、家庭に色んな工夫をして、子育てを楽しむって。名張はもう公立幼稚園は止めちゃうから、それが出来なくなったって。実は、多様性を物凄く失っていて、今までをなんで否定するのかなあと、色んな人がいいじゃない、家で子どもを育てたい、家で見てる子ども達もそれはそれで幸せだし、どっちかを否定するとか、どっちかを持ち上げるとかじゃなくて、どれも良いんだよって。子どもの時なんか大事にしてあげてたら、それでいいんじゃないって思う。そういう社会にしていってほしいなあと思うんです。

ヤングケアラーの話も、ヤングケアラーあかんみたいな、ヤングケアラーイコール不幸で、あってはいけない状態だ、みたいな書き方にすると、すぐくもったいない。子どもの力を奪っていくとか、権利を奪っていくぐらいのものになってしまうので、これは駄目とか、そういう否定じゃなくて、そういうのもあっていいんだけど、大事にしてあげて欲しいっていう、その視点をもって進めていって欲しいなあと凄く思いました。

委 まとめて頂いて、ありがとうございます。事務局の方はよろしいですか。

⇒ 頂きましたご意見を基にしながら、修正させて頂きながら、委員の皆様に、これでもよろしいかどうかのご確認を、コロナの関係で事務文書、書面だけの照会になるかもしれませんが、ご了解頂きたいと思います。

委員の皆様の任期ですが、11月30日をもちまして満2年となりますので、また、個別にご相談させて頂きたいと思っています。よろしくお願いします。

委 次回もよろしくお願いします。

⇒ これをもちまして、終了とさせていただきます。ありがとうございます。